

斐太北小 ESDだより

Education for Sustainable Development(持続可能な社会の創り手を育む教育)

「主語」を変えると、見えるものが変わる

8月28日(金)始業式のプレゼンを、ESDだよりにまとめてみました。

夏休みに、妙高市校長会の研修として妙高の自然の中を歩きました。

いもり池には、湿原の中を通る木道があります。人を主語に見れば、「ぬかるまず、歩きやすい道」です。では、**湿原を主語**にして見てみたらどうでしょう。人が自由に湿原へ踏み入らないことで、植物が踏み荒らされることを防ぐ。つまりこの木道は、人が歩くための道であると同時に、**湿原を守るための道**でもあります。



もくどう
木道



誰かの一步から踏み外れた山道

本来の山道

山道も同じです。人を主語にすれば、広く、平らで、歩きやすい道がよいでしょう。「段差を避けて、少し横を歩いた方が楽なのに」と思う場所もあります。しかし、**山を主語**にしたら？一人、また一人と本来の道を外れて歩けば、そこが踏み固められ、植物が育ちにくくなります。いつの間にかそこも道になり、道幅はさらに広がっていきます。

だれを主語にするかによって、「よい」の意味さえ変わる。

妙高の自然を守る仕事に携わる方から伺った、「人を主語にするのではなく、自然を主語にして考えたい」という言葉が、強く心に残りました。

「守りたい」を、「守り続けられる」に

さらに、妙高市の取組を知って、もう一つ考えさせられました。山道の整備は、多くの人たちのボランティアにも支えられてきました。しかし、大切な自然をこれから何十年も守り続けていこうとすれば、誰かの善意や頑張りだけに頼り続けることには限界があります。そこで妙高市は、専門的な知識や技術をもつ人材が継続して登山道整備に携われる体制づくりを進めています。

そしてもう一つが、「入域料」です。妙高山・火打山では2018年から社会実験を始め、2020年から、地域自然資産法に基づく入域料を本格的に導入しました。この法律に基づく制度としては**国内2例目**。全国に先駆けた取組です。登山者に一人500円の協力をお願いし、そのお金を、登山道の整備、ライチョウの保護、外来種の駆除などに役立てています。

つまり、**自然を楽しむ人も、自然を未来へ残す一員になる。**という仕組みです。「自然を大切にしましょう」と願うだけでは、自然を守り続けることはできません。人が必要です。専門的な知識や技術が必要です。そして、それを続けていくためのお金も必要です。**持続可能とは、「よいことをする」だけではなく、「よいことを続けられる仕組みをつくる」こと。**妙高の取組には、ESDで子どもたちと考えたいことが詰まっているように思いました。

ビジターセンター入口に設置されています→



学びも、「子ども」を主語に

この「主語を変えて考える」ということは、2 学期からさらに進める斐太北小学校の学びにもつながります。

先生を主語にすれば、「何を教えるか」「どの順番で教えるか」「いつまでにやらせるか」が中心になります。では、**子どもを主語**にしたら・・・？「私は、どこから始める？」「どんな方法でやってみる？」「このやり方でいいかな？」「最後までやるには、どうしたらいい？」「やってみて、私はどうだった？」そんな問いが生まれます。

斐太北型イエナプラン教育で取り組む単元内自由進度学習で育てたいのは、単に「自分の好きなように勉強する力」ではありません。私たち教師が子どもを「育てる」というより、子どもが自ら育っていける環境をつくることをイメージして、夏休み中に何度も打合せや研修を重ねてきました。



- ◆ 自分で選べる環境があれば、選ぶ力が育つ。
- ◆ すぐに答えを与えられず、試行錯誤できる時間があれば、やり抜く力が育つ。
- ◆ 自分の学びを立ち止まって見つめる機会があれば、振り返る力が育つ。

6 月の学校だよりでもお知らせしたように、教師の役割は、子どもに代わって道を決めることではなく、**子ども自身が自分の道を選び、歩き、時には選び直せる環境を整えること**なのだと思います。そう考えると、妙高の山道と子どもたちの学びが、私の中で重なりました。

木道は、植物を「育てて」いるわけではありません。人が踏み荒らさないようにすることで、**植物が自ら育っていける環境を守っています**。学校も、そうありたいと思います。これまでのやり方を振り返り、これからも続けられる方法を考える。そして、必要なら仕組みそのものを変えてみることも。

主語を変える 未来から考える

人を主語にしたら？ 自然を主語にしたら？ 自分を主語にしたら？ 友達を主語にしたら？

立つ場所を少し変えるだけで、それまで見えなかったものが見えてくることがあります。

そして、もう一つ。**「今」ではなく、「未来」を主語にしたら、どう見えるだろう。**

すぐに一つの正解を求めるのではなく、いろいろな立場から考える。自分で選ぶ。やり抜く。振り返る。そして、必要なら選び直す。自分で選ぶ。そんな力を「つけさせる」のではなく、**そんな力が子どもの中から育ってくる学校でありたい**。妙高の自然から、そんなことも教えてもらった夏でした

「一歩上の自分」につながる学びを、2 学期も子どもたちとつづいていきます。

JA えちご上越杯争奪 ナイターソフトボール大会

チーム「サムライナイン斐太」

1m の大きなトロフィーにびっくり！

優勝！

JA えちご上越杯争奪 ナイターパンプキョウボール大会

チーム「斐太北 Unite」

優勝！

JCV でインタビュー風景が放送されていたので知っている子も多かったです。

始業式の後、全校に紹介しました。ダブル優勝!!
斐太北の親子 Power がすばらしいですね。

★あの日の「憧れ」が甲子園につながった★

小学生の頃、甲子園に出場した斐太北小の先輩が学校を訪れ、話を聞いた時に「自分も、甲子園に行きたい」と思ったそうです・・・その時、心に芽生えた夢を追いつづけた少年が、この夏、日本文理高校野球部3年生として、甲子園のベンチ入りを果たしました。そう、黒石新汰さんです。

誰かの姿が、誰かの夢になる。

そして今度は、自分が誰かの憧れになる。



そんな素敵な「夢のバトン」を、ぜひ斐太北小の子どもたちへつないでほしいと声掛けしてみたところ、ご本人並びにご両親から快諾いただき、学校にお越しいただけることになりました。9 月 25 日(金) 11:20 から講演会、給食後にキャッチボールもしていただきます。詳細は後日ご案内します。保護者、地域の方も、ぜひお越しください。